

音声流し万引対策

県警「ナッジ理論」活用し実証



万引防止を促すような音声 that 流れる機器を取り付け、来店者に説明する海老原店長

県内で多発する万引を防ぐ科学「ナッジ理論」に基づき、県警は1日、行動社会実証を始めた。スー

パーの店内で万引防止を促すような音声メッセージを流し、被害が改善するかを検証する。県警によると、音声を用いた万引対策は全国初という。

ナッジは英語で「そっと後押しする」という意味。

県警は昨年、自転車の駐輪場にこの理論を用いて施錠を促すような看板などを設置した。施錠率向上に効果があったことから、万引対策への活用に乗り出した。

実証はいちい（本社・福島市）が営む16店で11月末まで行う。音声は「警察か

らのお知らせです」に続いて「皆様に安心してご利用いただけますよう万引防止の実験を行っております」「カード決済やスマホ決済もできますので、忘れずにお支払いをお願いします」など6種類。効果を確認できれば、他のスーパーにも展開していくという。

1日は福島市のロシナンテ福島西店に音声を流す機器を導入し、万引の多い食料品売り場やレジ付近などに取り付けた。海老原靖典店長は「万引を考える人に踏みとどまってほしい」と期待した。実証には県警犯罪抑止対策アドバイザーで

福島大教育推進機構「地域×データ」実践教育推進室の鈴木あい特任准教授が犯罪科学Ⅱが協力している。県内の今年1月～6月末の万引の認知件数は658件で、発生場所ではスーパーなどの商業施設が全体の56・4%を占めている。